

市民意見の募集結果

小田原市立幼稚園の園児数減少への対応指針案に対する市民意見の募集結果について

1 意見募集の概要

政策等の題名	小田原市立幼稚園の園児数減少への対応指針
政策等の案の公表の日	令和3年7月15日（木）
意見提出期間	令和3年7月15日（木）から同年8月13日（金）まで
市民への周知方法	意見募集要項の配布（市内公共施設、ホームページ）

2 結果の概要

提出された意見は、次のとおりです。

意見数（意見提出者数）	9件（2人）
インターネット	2人
ファクシミリ	0人
郵送	0人
直接持参	0人

無効な意見提出	0人
---------	----

3 提出意見の内容

パブリックコメントで提出された意見の内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

〈総括表〉

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、政策等に反映したもの	0
B	意見の趣旨が既に政策等に反映されているもの	0
C	今後の検討のために参考とするもの	1
D	その他（質問など）	8

〈具体的な内容〉

(1) 指針の内容に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	教育委員会の考え方
1	現在、公立幼稚園・保育園は支援を要する子供たちの受入先になっている。せめて給食、園バス、認定こども園化を行ってから、人口減少との兼ね合いを考えていくべき。市の負担が大きくても、公立園が果たしてきた役割を放棄してはならないと思う。	C	インクルーシブな環境づくり等に対する公立施設の役割は大変重要であり、最低基準を下回った場合でも、公立施設が果たす役割を踏まえながら対応を検討することとしております。支援を要する子供たちにとって望ましい就学前教育・保育を今後も提供していくためには、公私幼保の各施設が協働して市全体として取り組んでいく必要があると考えています。
2	最低基準を下回った場合の対応における幼稚園の代替施設とはどのようなものを想定しているのか。	D	公立・私立の幼稚園、認定こども園など就学前教育・保育施設を想定しています。

(2) その他、市立幼稚園に運営等に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	教育委員会の考え方
1	現時点で最低基準を下回っている幼稚園はどの幼稚園か。	D	令和3年8月1日現在で最低基準を下回る園児数の市立幼稚園は、前羽幼稚園、下中幼稚園及び報徳幼稚園の3園です。
2	市内の私立幼稚園の定員、園児数、学級数及び充足率を教えてください。	D	個々の施設の状況については回答を控えますが、令和2年度の市内私立幼稚園の定員充足率は68.5%です。なお、参考までに同年の公立幼稚園の定員充足率は30.6%です。
3	私立幼稚園と市立幼稚園の園児数の減少率に差がある場合の原因について、どのように考えているか。	D	充足率等の違う理由については一概に言えませんが、3歳児から通園できることや園バスが利用できることなどが考えられます。

4	新たに3歳児教育を開始して園児数の確保をしないのか。	D	本市の幼稚園教育は私立主導で取り組まれ、公立は補完的役割を担ってきた経緯があります。幼稚園利用者が減少している中で、単に市立幼稚園の園児数を確保する対策を講ずることは適切ではないと考えます。
5	市立幼稚園全園を認定こども園にして保育ニーズに応えつつ教育の場も確保することはしないのか。	D	市の就学前教育保育施設の整備は、幼稚園、保育所等を必要とする子供の数（量の見込み）と、その地域における施設の設置状況（提供体制の確保）を考慮して、設置の必要性を十分検討する必要があります。現時点では、全ての幼稚園を認定こども園化する計画はありません。
6	前羽・下中幼稚園の統廃合と今回の指針は何か関係があるのか。	D	前羽幼稚園と下中幼稚園は、ともに園児数が少ないなどの理由により、指針策定に先行して、両園の統合による認定こども園の整備を計画しています。取組の方向性は、指針の趣旨と合致するものと考えます。
7	橘地域の認定こども園整備の進捗状況はどうなっているのか。	D	橘地域の認定こども園整備については、地域の方々との話し合いや子育て世帯の意見聴取等を行っています。